

# おうち

第14号

2009.2

テーマ「ルールやマナーと大人のかかわり」



表紙絵 「うし」 きし あきひと ちゃん (年少)

## 特集 「ルールやマナーと大人のかかわり」

- ・アンケートの結果
- ・「大人が手本」はわかるけど・・・
- ・幼稚園、保育所にききました
- ・保護者の方々へ（お便り） 栃木県総合教育センター所長 鈴木 健一

子どもと読みたい一冊 「おおきくなるっていうことは」

掲示板

とちぎの幼・保・小連携 子どもの交流活動

お知らせ

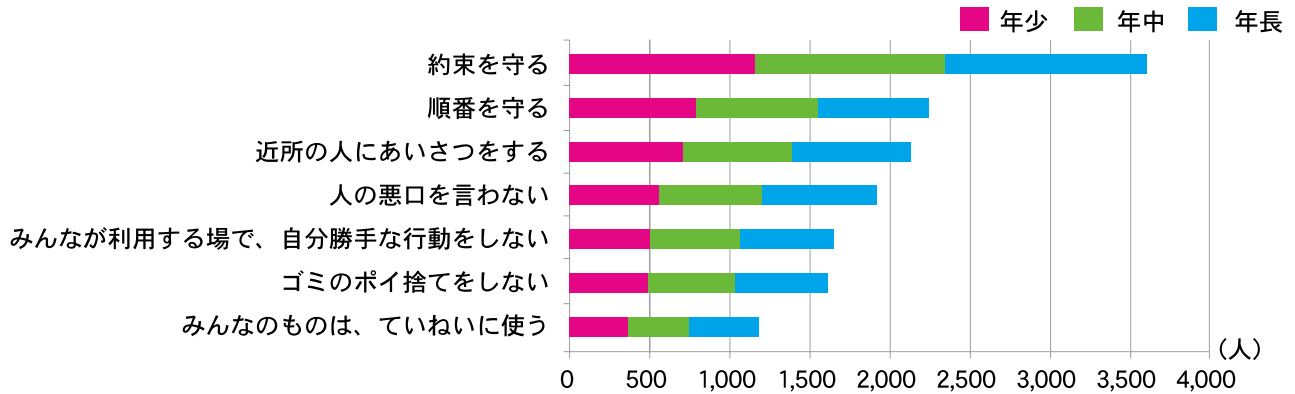
# 特集

# 「ルールやマナーと大人のおがわり」

今回は、みなさんのご家庭で、子どもに身に付けさせたいルールやマナーについてどのように考えているのか、アンケートに答えていただきました。

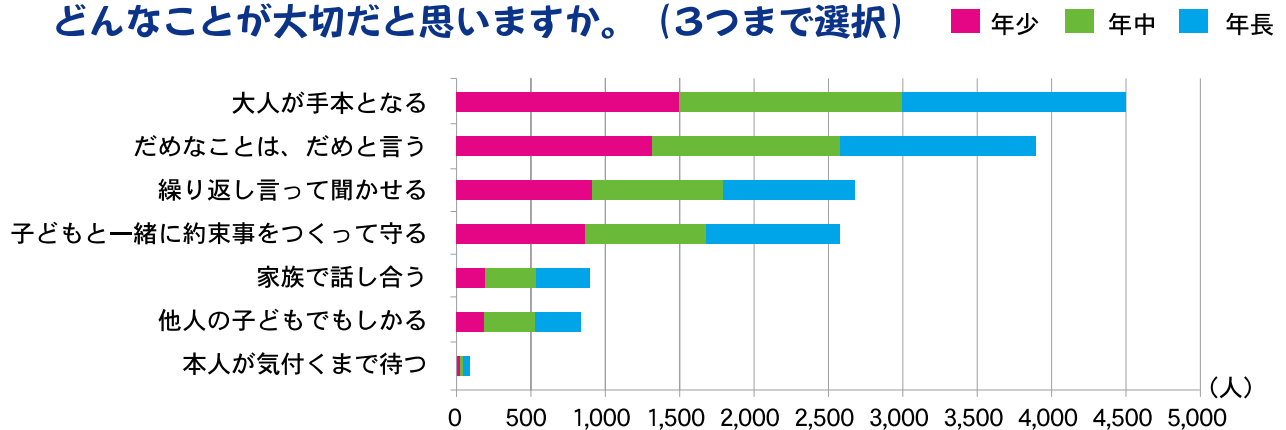
(対象：県内の3～5歳の子をもつ保護者 回答数：5,564件)

## Q1 お子さんにはどんなルールやマナーを身に付けてほしいですか。(3つまで選択)



- 子どもに、「約束を守る」ということを身に付けてほしいと願っている保護者が多いことがわかります。
- 最も少ない項目でも、1000人以上の保護者が選んでいることから、お子さんの年齢にかかわらず、どの項目も大切だと考えられているようです。

## Q2 お子さんにルールやマナーを身に付けさせるためには、保護者としてどんなことが大切だと思いますか。(3つまで選択)



- 「大人が手本となる」や「だめなことは、だめという」という回答が多いことから、大人がルールやマナーを守る姿を見せたり、ときには毅然とした態度で子どもと接したりすることが大切だと考えている保護者が多いことがわかります。
- 「本人が気付くまで待つ」が少ないことから、子どもだけでは、ルールやマナーに対する意識が育ちにくいと考えている保護者が多いことがうかがえます。

Q1, Q2の結果から、お子さんの年齢による差異は、見られませんでした。このことから、子どものルールやマナーに対する意識を長期的に育てようとしている保護者の姿が見えてきます。

ルールやマナーについて、社会全体で意識しなければならないというご意見をたくさんいただきました。その中から、多かったですご意見を紹介します。

他人の子どもでも、悪いことをしたらしがる、よいことをしたらほめるということが当たり前の社会になればよいと思う。

まず、大人がルールやマナーを守り、正しい行為や人に迷惑をかけない行動を示すことが大事なのではないか。

地域との交流によって学ぶことも多いので、もっと深められたらいいと思う。

見て見ぬふりをするということを改めることが大切だと思う。

保護者と保育所や幼稚園とが、情報交換を密にし、連携して子どもを育てていくことが大切だと思う。

親が、マナーに反する行為をしている場面を目にすることがある。子どもは、親の姿を見て好ましくないことも学んでいる、ということ意識する必要があるのではないか。

誰から注意されても、それを受け入れることが当たり前と感じられる社会をつくれたいなあと思う。

子どもが、自分で考えながら、のびのび遊んだり、学んだりできる環境をつくるのが大切だと思う。

他人を思いやる気持ちをもって行動すること。そのためには、幼児期が重要だということ意識することが大切だと思う。

## とちぎのルール・マナーの向上のために ～とちぎの徳育推進事業～

自由意見の中に、幼稚園や保育所、地域と連携して子どものルールやマナーについての意識を育てていくことが大切だという意見がたくさんありました。

現在、栃木県では、幼児から高校生の子どものルールやマナーの向上を目指して、「とちぎの徳育推進事業」を進めています。

保育や授業、あるいは家庭教育学級や保護者会などで、ルールやマナーについて考える時間をつくり、学校と保護者と地域とが連携して取り組めるよう、支援しています。

そして、子どもと向き合うすべての大人が心がけたいこととして、右の7つのポイントを提案しています。



(カット「うさぎ」 ぐんじ まさやちゃん)

- 子どもと向き合う七つのポイント
- 一、大人が手本を示す
  - 二、「自分で、自発的に」という意識を育てる
  - 三、子どもから大人への意識の変化を受け止める
  - 四、気持ちを落ち着かせてから対話を始める
  - 五、子ども同士が話し合い共に学ぶ場をつくる
  - 六、地域社会との連携は「あいさつ」から始まる
  - 七、当たり前と思うことでも学校と家庭の間で確認し合う

## 「大人が手本」はわかるけど・・・

幼児期の子どもにルールやマナーを身に付けさせるために、大人が手本を示すことは大切なことです。「でも、これでいいのかしらと悩むことがあり、自信がない」などの意見をいただきました。

私たち大人は、子どもとどう向き合ったらいいのか、一緒に考えていきましょう。



**子ども同士で解決できることなのか、親が加わらなければならないのか悩みます。**

その場にいる大人としては、判断が難しいところですが、大切なことは、子ども自身が納得し、自分から解決に向けて考えていこうとする気持ちを育てるようなかわりをする事です。

例えば、順番が守れずトラブルになったときなど、並んで待っていた子と、並ばず入ってきてしまった子と、お互いの気持ちを伝えたくて、「並んで乗ると楽しいね。」と言葉かけをすると、並んで待つことの意味が納得できるのではないのでしょうか。大人が手本となり、ルールやマナーを守ることはもちろん大切ですが、大人が子どもの気持ちを代弁し、「〇〇だったんだよね。」と伝えることも、大切な大人の役割です。そのことによって、子どもは、自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを理解したりできるようになるのです。



**子どもが、ルールを守っていない大人を見かけると、「あの人はどうしているの?」と聞くので、困ってしまいます。**

子どもは、大人のすることをととてもよく見ています。というのも、子どもは、大人の言動を価値判断の基準として育つからです。子どもが初めての出来事に出会ったとき、それがよいことや悪いことや、安全なのか危険なのか、信頼関係のある大人の反応を見て判断します。「あの人はいいの?」という言葉の裏には、自分の信頼する人がどんな判断をするのかを確かめたい気持ちがあるのでしょうか。まず、社会のルールに気付いたお子さんをほめ、そのことを一緒に考えていく機会にしてみてもいいのではないでしょうか。



**家庭で親との約束が守れない子は、友達との約束も守れない子になってしまうのではないかと心配です。**

幼児は、約束の意味が理解できなかったり、理解していてもやりたくないなどの自分の感情が優先してしまったりして、約束が守れないことがあります。幼児期の子どもは、約束を守らないのではなく、まだ守れない発達過程にあるとも考えられます。守りなさいという言葉だけで強要することは難しいと思います。家庭の楽しい雰囲気の中で、子どもがわかるルールでゲームをしたり、一緒に約束をつくって家族で守ったりするなど、日々の生活の場面で、約束を守ることの大切さを体験を通して学ばせたいですね。そして、約束が守れた心地よさを味わわせてください。そのことによって、子どもの自尊心が育ち、守れなかったときには罪悪感が生まれます。

子どもが成長し、友達とのかかわりが増えてくるようになったとき、約束の意味や大切さを理解し、行動できるようになるために、子どものよさを認めながら、自尊心を育てていきたいですね。



## 幼稚園・保育所にききました

ルールやマナーに対する意識は、人とのかわりの中で培われることが多いと思います。幼稚園や保育所では、どのように子どもたちとかかわっているのでしょうか。

### 親子の体験活動をしました

私たちの園では、最近「ルールやマナーを考えるポスター」を使って、年長さんを対象に身近なルールについて考える時間を持ちました。子どもたちは、私たちが思っているよりも、よく見てよく考えていることがわかりました。でも、頭ではわかっていてもなかなか行動できないのが、幼児の特徴です。子どもたちには、体験を通して実感できるように、実際に散歩に出かけたり、公共の場のトイレを使ったりして、みんなが安全に気持ちよく生活するにはどうすればよいか、考えるきっかけを作りました。このときには、保護者の方も参加していただき、家庭でも、ルールやマナーについて考えていきたいという感想をたくさんいただきました。

また、幼児は、紙芝居や絵本が大好きです。友達と意見が食い違ってしまったり、約束を守らないでいやな思いをしたり、自分でもどうしたらいいかわからないとき、その場面に関連した紙芝居や絵本を読んで、心に響くよう働きかけをしています。

まず、心を耕すことが、幼児期には大切なのではないのでしょうか。

『ポスターを使って親子で〇×ゲームもしました』



### 使ったのは、このポスターです



あいさつをしているね。



横断歩道の近くでは、車はゆっくり走ってほしいね。

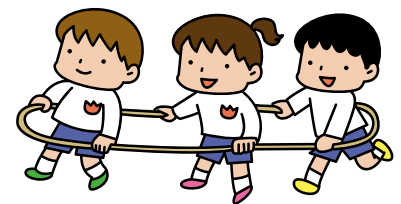
## 異年齢の子から学ぶ機会を大切にしています

私たちの園では、いろいろな年齢の子どもたちとの生活を通して、自然に思いやりの気持ちが育つようにしています。そして、「こうした方がみんなが楽しい」と、子どもが自分で気付くことを大切にしています。

先日、こんなことがありました。2歳の女の子が庭で転んで泣いていました。その子を年少さんは、不思議そうに見ていました。年長さんは、それに気が付いて、担任の先生の所に泣いている子を連れていきました。先生は、その子を膝に抱っこして、「どうしたの?」と言いながら、涙を拭いてあげました。その様子を見た、先ほどの年少さんが、先生のまねをして、ティッシュで涙を拭いてあげ始めました。泣いていた子は、年少さんの顔をまじまじと見たかと思うと、泣くのをやめて、自分で涙を拭き始めました。

この年少さんは、先生や年長さんの行為を見て、泣いている子にやさしく接することを学び、泣いていた2歳児さんは、年少さんの優しさに触れ、気持ちを立て直すことができました。この2歳児さんは、今度は、泣いている子の涙を拭いてあげることでしょう。

私たちは、このように、日常的に培われる思いやりの輪を大切にしています。相手を思いやる気持ちが、ルールやマナーを守ろうとする気持ちの源になると考えています。



子育ては、毎日が  
“はらはら・どきどき・わくわく”  
～親子でつくる我が家のルール～

栃木県総合教育センター所長 鈴木 健一

子育て真っ最中のお父さん・お母さん、お元気ですか。「おうち」をご愛読いただき有難うございます。

今回は、ちょっと難しそうな「ルールやマナー」がテーマです。子育て経験者の一人として、お便りを差し上げたいと思います。

日本人は子ども好き？

明治11年(1878)6月、日光を訪れたイギリス人の女性旅行家イサベラ・バードは、次のような記録を残しています。

私は、これほど自分の子どもをかわいがる人々を見たことがない。子どもを抱いたり、背負ったり、歩くときには手をとり、子どもの遊戯をじっと見ていたり、参加したり、いつも新しい玩具をくれてやったり、遠足や祭りに連れて行き、子どもがいないといつもつまらなそうである。他人の子どもに対しても、適度に愛情をもって世話をしてやる。父も母も、自分の子に誇りをもっている。

『日本奥地紀行』東洋文庫より

驚くほどのことではないかもしれませんが、当時来日した多くの外国人もこうした好印象を持っていたようです。130年たった現在でも私たちのまわりでもいつでも見受けられる光景です。

子どもを大切に育てるということは、私たちの誇るべき国民性であり、伝統文化であると言えます。

はらはら・どきどき・わくわく!!

毎日の子育ては、大変です。我が家でもそうでした。男の子が二人、保育所でお世話になりました。それぞれに「はらはら・どきどき・わくわく」の連続でした。私は子ども好きですが、自信をもって育てていたわけではなく、右往左往の毎日でした。今振り返ってみると、「子どもは自分で育った」のかもしれませんが。

心配ではらはらしたり、ちょっとした成長に、わくわくしたりの連続でした。全く、子育ては「親育て」です。

我が家のルールを作りましょう

とはいえ、しっかり生きていくために子どもに学んでほしいことも多いものです。特に、人と人とのつきあい方は第一でしょう。いくら子どもをのびのび育てようと思っても、家庭、ご近所や幼稚園、保育所はお互いに支え合うことで成り立っていますから、いろいろとつきあうための約束事があるのです。

まずは「我が家のルール」がスタートです。お子さんと一緒に、朝起きてから寝るまでの一日の生活の中で、「これだけは」という約束を作ってみることが大切です。

その際、「だめはだめ」との禁止形も必要ですが、「だめ」という理由も合わせてお子さんと考えてみてはどうでしょう。

多くのルールの背景には、「大切な命」や「思いやり」などがあるはずですが、どうしても守らなくてはいけない大切なことがあるから、ルールが生まれるのです。



頑張っているお父さん・お母さんへ

価値観が多様化する現代では、子育てに迷うことも多いことでしょう。お父さん・お母さん方は、忙しい仕事を抱えながら子育てを十分頑張っていると思います。なぜなら、皆さんのお子さん方は、明るく元気に育っているからです。

もし、困ったことや心配なことがあったら、まずご家族でよく話し合い、子育て中の友人や幼稚園・保育所の先生方に相談することをお勧めします。必要があれば公的な相談機関等を利用されるのもよいでしょう。

我が子の安心しきった幸せそうな寝顔は、子育ての最高のご褒美であり、明日の元気の素です。お父さん・お母さん方のご活躍をお祈りいたします。子育て万歳!!

## 「おおきくなるっていうことは」

中川 ひろたか 文／村上 康成 絵 童心社



大きくなるってどういうことなのでしょう？  
この本には、たくさんの「おおきくなること」が収められています。  
きっと、「そう、そう。」って、うなずけることがあると思います。  
大きくなる喜びをお子さんと一緒に感じてください。

前号のお月見の話、虫の声の歌詞掲載がとてもよかったです。秋の野山に出かけたくなりました。「おうち」を利用して、もっと、子どもと触れ合う時間をもちたいと思いました。

今の子どもたちは、どのような遊びをしているのでしょうか。先日、家の外でもゲーム機で遊んでいる子を見かけました。大人として、どのようにかかわったらいいのか、知りたいです。



### 掲 示 板

自由意見で  
寄せられた声です

優しいイラストや色遣いで、とても読みやすいです。わかりやすいグラフが参考になります。「おうち」を読んでいると、勇気づけられるので、これからも読んでいきたいです。

「自然とのかかわり」とても大切なことだと思います。一つの石を握りしめて家に持ち帰り、その石に顔を描き「きつねだよ！」と喜んでいる我が子。その姿を見て、自然のものを利用して、いろいろな遊びができることを知らされました。

「子どもと読みたい一冊」に、とても興味をもちました。これからも、ずっと紹介してください。

「おうち」は、栃木県教育委員会の幼児教育担当部門である「幼児教育センター」が、幼児期の教育についての情報を提供するために発行しています。

バックナンバーはホームページで読むことができます。(アドレスは次ページ参照)

また、表紙の絵やカットを随時募集しています。

### ★アンケートのお願い★

#### 次回テーマ「子どもの遊びと体力」

子どもの遊びと体力について、みなさんのご家庭では、どのようにお考えでしょうか。アンケートでお寄せください。

「おうち」は皆さんの声で構成する情報誌です。ぜひ、ご協力ください。アンケートは幼稚園・保育所にお出しく下さい。

# とちぎの幼・保・小連携

## ④ 子どもの交流

このコーナーでは、11号から「幼稚園・保育所・小学校の連携（以下「幼・保・小連携」という）」について掲載しています。「幼・保・小連携って一体、何のこと？」という方も多いのではないのでしょうか。簡単に言えば、「幼稚園・保育所・小学校の先生たちが協力し合って子どもの育ちを支えよう」というものです。前回までは、主に教職員の交流について紹介しました。今回は、子どもの交流について紹介します。

年長になると、入学する小学校を訪ねる機会があります。入学直前の交流の他にも、小学生が幼稚園・保育所を訪ね、読み聞かせをしたり、一緒に遊んだりするなど、様々な交流が行われています。

小学生との交流は、幼稚園・保育所の子どもにとって、入学への不安を少なくし、期待や憧れをふくらませる絶好の機会になります。

その中から、「秋祭りへようこそ」という交流活動を紹介します。1・2年生の学習には、国語や算数と同じように生活科という教科があります。生活科では学校や町を探検したり、動植物を飼育・栽培したりする具体的な体験を通して、様々なことを学びます。

「秋祭りへようこそ」は、2年生が秋の自然を利用した装飾品や食べ物のお店、遊びのコーナーなどを用意し、そこに幼稚園・保育所の子どもを招いて、一緒にお祭りを楽しむ生活科の活動です。

一見すると、お祭りごっこで遊んでいるだけのように見えますが、秋祭りを楽しむ中で、子どもたちは、たくさんのことを学んでいるのです。

小学生は、秋祭り当日に向けて、計画的に準備を進めます。グループごとに、幼稚園・保育所の子が喜ぶような品物は何だろう、小さい子にもわかりやすい看板にしようなどと、自分たちで考え、材料を集め、制作し、お店を完成させます。



「いいですね。うらやましいか？」

「うらやましい。二つと六十円です。」

一方、幼稚園・保育所の子どもは、買い物用の財布やお金を作り、どのお店に行こう、いくつ買おう、などと自分なりに考えながら買い物やゲームに挑戦します。

お金が足りなくて困っていると、小学生がおまけをしてくれたり、思うようにゲームができないと、わかりやすく説明してくれたりするなど、温かいかわりもたくさん見られます。

このように、学校の中では低学年である2年生も、交流を通して、お兄さんお姉さんとしての自覚が芽生え、大きく成長します。

また、幼稚園・保育所の子どもも、園に帰ると早速、お店ごっこを始めるなど、自分の遊びにつなげています。

すでに、お子さんも、このような交流活動に参加しているかもしれませんね。ご家庭でも、ぜひ話題にしてみてください。

## お知らせ



### 家庭教育ホットライン（保護者専用）

保護者の皆さん！お子さんの育児、子育て、しつけ等家庭教育のことや友達、いじめ等対人関係のことなどで困っていること、悩んでいることはありませんか？  
秘密は絶対に守ります！一人で悩まず気軽に御相談ください！

TEL 028 (665) 7867 受付時間 毎日午前8時30分から午後9時30分まで  
【午後9時30分～午前8時30分までは留守番電話・FAX（電話番号と同じ）で対応】  
栃木県教育委員会

### とちぎ テレビ から

### とちぎテレビ番組「とちぎ教育新事情」のご案内

「おうち」第14号に関するテレビ番組を次のように放映しますのでご覧ください。  
日時：平成21年3月15日（日）10：10～10：30 再放送：平成21年3月16日（月）12：05～12：25  
内容：「ルールやマナーと大人のかかわり」

## 幼児教育情報誌「おうち」第14号

平成21年2月発行  
発行者 栃木県幼児教育センター  
〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7215  
FAX 028-665-7216

URL : <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>

e-mail : [yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp](mailto:yokyo-c@tochigi-edu.ed.jp)